



東京女子医科大学腎臓病総合センター泌尿器科

Tokyo Women's Medical University
DEPARTMENT
OF UROLOGY

【経尿道的膀胱腫瘍切除術を受けられる患者様への説明文書】

(1) 経尿道的膀胱腫瘍切除術とはどのような手術か

- ①手術：この手術は、尿道から挿入した内視鏡を用いて、ループ状の電気メスで膀胱内の腫瘍を切り取る方法です。腫瘍が疑わしい部分があれば、組織を調べるために膀胱壁の一部を採取します。これを『生検』といい、手術と同時に行われます。

この方法により、開腹することなく安全かつ簡単に腫瘍の切除が可能です。

- ②麻酔：通常腰椎麻酔と閉鎖神経麻酔の併用（下半身麻酔）ですが、全身麻酔のこともあります。
- ③体位：手術は、両足を開脚する姿勢（砕石位）で行われます。
- ④実際の手術時間は、1－2時間です。手術終了時には、尿道にゴムの管（カテーテル）が挿入されます。カテーテルは、1－3日後に抜かれます。手術後約2－5日で退院となります。
- ⑤抗癌剤の膀胱内注入：手術後、再発予防のために抗癌剤を膀胱内に注入することがありますが、点滴投与する場合に比べて副作用は軽微です。

(2) 合併症は？

(1) 手術中に起こりうること：手術は安全に行われますが、きわめてまれに下記のようなことが起こるリスクがあります。

- ① 術中出血：大きな腫瘍では出血しやすいこともありますが、輸血が必要になるのはまれです。
- ② 膀胱穿孔：まれに膀胱の壁に穴があき、破れた孔から手術時に使用する灌流液が漏れ出ることがあります。小さな穿孔では、カテーテルを少し長めに入れておくだけで大丈夫ですが、大きな穿孔ではお腹を開いて修復する必要があります。

(3) 手術後・退院後に起こりうること

- ①出血：手術直後に再出血が見られることがあり、止血のための処置を行うことがあります。また退院後、手術の傷が完全に治る1ヵ月頃までは、切除面からの再出血のリスクがあり、強い血尿となることがあります。下腹部に力を入れない様にして頂きますが、注意点については退院時に詳しくご説明致します。
- ③ 膀胱刺激症状：膀胱の傷のため、一時的に頻尿、排尿痛などの症状が出ますが、数週間以内に改善します。

*退院後に強い血尿や排尿困難などの緊急を要する症状が発生した場合には、外来（夜間の場合は救急外来）を受診するか、または主治医までご連絡ください。

（４）退院後の通院：退院してからしばらくの間は、２週間から４週間に１回の間隔で通院していただきます。検尿や尿細胞診、あるいは必要に応じて膀胱鏡検査などを施行し、再発の有無をチェックいたします。

不明な点がありましたら、主治医、担当医にお尋ねいただくか、
泌尿器科外来までお知らせ下さい。（TEL:03-3353-8111）

経尿道的膀胱腫瘍切除術を受けられる患者さんへの説明文書

東京女子医科大学泌尿器科学教室

Department of urology, Tokyo women's Medical University.

以上の点について説明を受け、よく理解し、処置に同意します。

平成 年 月 日 患者氏名

患者家族氏名

その他、特に説明した内容

a)

-

b)

-

以上の点について、患者、患者家族に十分説明しました。

説明医